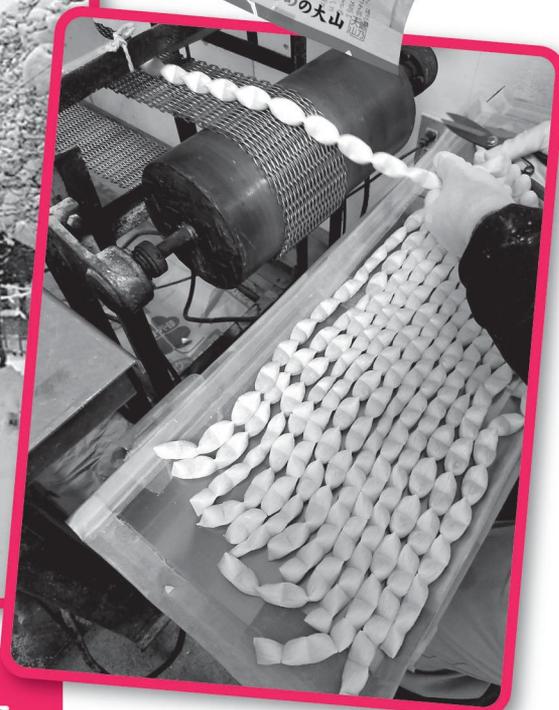


穂豊帆 21

[hohoho 21]

～地域探訪 北山形駅周辺～

北の総鎮守 鳥海月山両所宮



(有)大山製菓さんの初あめ
製造作業の様子

●農業委員会の活動報告

- ・年頭のご挨拶 2P
- ・山形県農業委員会大会 2P
- ・令和2年度食農交流事業 4～5P
- ・農地利用最適化推進委員研修 6P

●地域情報

- ・みんなの広場 3P
(千歳地区 熊谷 八重子 さん)
(飯塚地区 神保 香里 さん)

●お知らせ

- ・農業者年金受給者の手続きについて 6P
- ・許可等日程のお知らせ 6P
- ・農業委員会からのお知らせ 6P



年頭のご挨拶

山形市農業委員会 会長 大築 義雅

あけましておめでとうございませう。令和3年の初春をすこやかに迎えられたことお慶び申し上げます。

さて、昨年一年間を振り返ってみますと、私たちがこれまでに経験したことのない二つの大きな出来事に見舞われました。一つは新型コロナウイルス感染症における日本経済への大打撃です。その余波は数年尾を引く事になりそうです。二つ目は50年ぶりに山形市を襲った7月の豪雨災害です。7月28日未明から降り続いた雨は農作物や農業水利施設にこれまでにない甚大な被害をもたらしました。これから始まる春の農作業に支障をきたす事がなく、営農意欲が低下しないように災害復旧にあたりたいと思います。

新規就農者の自立支援にむけて

本市には農業に夢を託した多くの若い農業青年が頑張っています。彼らがいち早く自立でき、そしてその期待に少しでも応えられるように「就農定着検討小委員会」を昨年11月に立ちあげました。新規就農者

(親元就農者・青年農業者)のなかには支援の手が及んでいない農業後継者がおります。元気のある青年農業者が活躍できるように安定した収入を得、そして何よりも経営が成り立つことが一番重要であると、「新規就農者ワンストップ窓口」も本市には設置されています。情報を共有しながら彼らの後押しが出来る様に活動していきたいと思えます。

動き出した人・農地プラン

平成24年にスタートした「人・農地プラン」。21地区の会議が終わり令和3年3月までにプランを決定し国に提出することになります。これまで行われてきたプランは、地域の話し合いに基づくものとは言い難いものもありました。この度各地区で実施された話し合いには地区の皆さんから多数の出席をいただき、これからの地区の中心的経営体への農地の集約化や地域の将来像に具体的なお意見、ご指摘がありました。農家人口が少なくなるなかで農地や農村環境の維持について地域で実践して

いくことになり。農地の集約につながっていく大切な話し合いです。これからもみなさんの積極的な参加をお願いいたします。



農業委員

会では「農地利用の最適化の推進」が最も重要な必須事務として位置付けられています。今回の改選期に伴い、計画の中間年度3年目に当たることから、その検証・見直しを行いました。委員の皆さんと共に目標達成に向けて努力をしてまいりますので、地域の皆様のご協力をよろしくお願いたします。

本年が災害もなく穏やかな一年となりますよう祈念申し上げます。新年のご挨拶いたします。



山形県農業委員会大会

山形県農業委員会大会が11月6日、新庄市民文化会館で開かれ、置賜、村山、最上、庄内地方の農業委員と、農地利用最適化推進委員が一堂に会し、4地方の農業委員会協議会が、現場からの意見を集約した政策提案を含む、4議案が示されました。①次世代に継承する活力ある農業、農村の再構築のための政策。②「地域の農地を活かし、担い手を応援する全国運動」で新型コロナウイルス禍の農業、農村を元気にする申し合わせ。③農業者年金の加入促進と情報提供活動の強化に関する申し合わせ。④新たな「食料、農業、農村基本計画」の実現に向けた取り組み強化に関する申し合わせ。これらを採用しました。席上、五十嵐直太郎県農業会議会長より、農林水産大臣表彰の伝達や、県農業会議会長表彰が行われました。

新型コロナウイルス感染症対策として、参加者数は半数程度の約500人(山形市からは、農業委員19名が参加)での開催となりました。

(農業委員 井上 敏嗣)



みんなの広場



趣味の家庭菜園人

千歳地区 熊谷八重子さん
くまがい やえこ

朝起きて家事をしながら天気予報をチェック。今日は晴れ、一週間ほど平年並みの気温。やつぱり今日は、青菜を収穫して干そう。夕食用の野菜もとって、昼のデザートに柿をとって、収穫が終わったブドウの枝も剪定できるかしら。と一日の作業に思いをめぐらす。サラリーマン家庭から勤め人の夫に嫁いで30数年、義父母が専業農家なのですっかり農家の嫁と思いきや、私は「趣味の家庭菜園人」です。

見た目の悪いメロンは大雑把にカットされて食卓に並び、食べ放題さながら。傷のあるトマトは食べきれずに野菜クズとなり、キュウリはヘタの方をガツリ切り捨ててキュウリ漬けとして供される。結婚当初の私にはアツと驚くカルチャーショックな生活。私は義父母が作った野菜を畑から採ってきて調理する日々。何と贅沢で幸せな食生活。しかし、みんな歳とっていくのですね。いつしか義父母は野菜作りを断念。ついに野菜を購入？いやいや、畑があるのだから誰か(?)が作ればいいのです。・・・自分しかいませんけどね。

私には「趣味の家庭菜園人」としてのルールがあります。まず自分のための時間は確保する。無理はしない。だから、うまく育たなくても私の手に負えなかっただけ。なんとか収穫できたものはありがたく美味しくいただく。自分の食べたい作物には挑戦してみる。はじめてみたら、失敗作もいっぱい。やつぱり適期にちゃんとした管理をしないといい作物はできないんですね。農家の皆さんがいかに気を配って作っているのかわかります。でも、いいんです。私は「趣味の家庭菜園人」です。産直を覗けば美味しそうな物がいっぱい、買って来なくつちや。それにこころ優しい近所の農家さんから美味しい野菜をいただくこともある。私も上手にできたら嬉しくて持って行っちゃおう。こんなお付き合いもステキでしょ。

さて、青菜は多めに漬けて送ろうか。山形の味を懐かしく思っている人に。今日も楽しい一日になりそうです。



新規就農者の皆さんへ

飯塚地区 神保香里さん
じんぼ かおり

私は飯塚地区で、夫・両親とハウス野菜栽培や稲作に従事しています。農作業中はずっとラジオを流していますが、普段よく聴く番組で「山形県内の新規就農者」について取り上げていました。私の周りでは二十代から四十代の若い人たちが就農し、頑張っています。そんな彼らの楽しそうで、ひたむきに働く姿を思い浮かべながらその内容に耳を傾けました。

山形県の新規就農者数は八年連続の増加で、今年度は353人、東北六県中一位です。その内訳は新規学卒者52人、農家出身のUターン者151人、非農家参入者150人となっているようです。残念なのは女性就農者が昨年度の91人から、56人へと大幅に減少していることです。これは同じ女性として由々しき問題であり、今後の対策やサポートを真剣に検討していただきたいものです。

とはいえ、「農業」という職業を選択する若い世代が増えているのは喜ばしいことです。どんな職業でも、楽しい部分と辛い部分があります。特に農業はキツイ仕事です。天候にも大きく左右されます。でも、種蒔きから収穫まで、全てが自分の喜びに変わり、充実した生き方を実感出来ます。

そんな素敵な職業を選択してくれた新規就農者353人の若者たちにエールを送ります。私と同じ職業を選んでくれて、本当にありがとう。固定観念に捉われない、新しい技術、新しい道具、新しい発想で未来を切り開いていってください。頑張れ、若い農業者たちよ！

第1ブロック

(旧市、飯塚、樫沢、
滝山、東沢、南沼原)

山形まるごと館「紅の蔵」とタイアップし、「秋祭り」を四年連続開催。陽が射したり雨が降ったりとコロナ変わる天候に翻弄されながらも、農産物販売・ゲーム・アンケート等を通じ、昨年を上回る多数の来場者と交流することができた。

例年と大きく異なるのは「新型コロナウイルス感染症」への対応だ。来場者の検温や手の消毒、氏名や連絡先の把握には万全を期したが、好評だった新米おにぎりの試食は残念ながら実施できなかった。

今回は若い親子連れの姿が目立った。空クジ無しのビンゴゲームが目当てかもしれない。見事ビンゴになった幼児が景品のリングゴに手をかけた瞬間、背後から「ブドウ！ブドウ!!」と必死に指示するお母さんもスゴイが、あらためてシャインマスカット人気のスゴさに驚いた。

準備した農産物は完売、150名分のアンケート返礼品の雪若丸も無くなり、当初の予定より一時間ほど



早く閉会。新たに試みたゲームは大きい盛り上がりがあったものの、ついつい密になりがちだったと反省も残った。

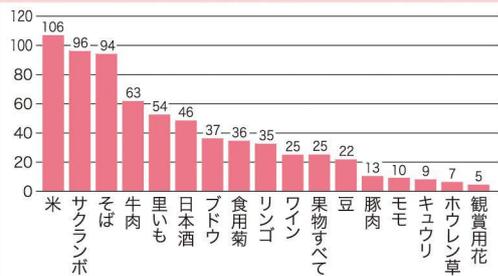
コロナ禍前の生活様式へ戻ることには困難かもしれないが、来年も身近に「秋祭り」を楽しんでいただきたい。最後は、様々なご提案や叱咤激励をいただいた「紅の蔵」堀野支配人はじめ、スタッフの皆様に感謝申し上げます。

(農業委員 推名 俊明)

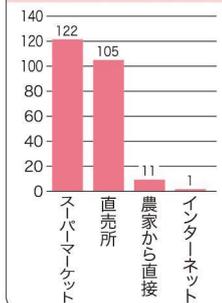
第1ブロック食農交流事業アンケート結果

※紅の蔵にて 回答総数 145件

「山形」といえばどんな農畜産物イメージがありますか？(複数回答可)



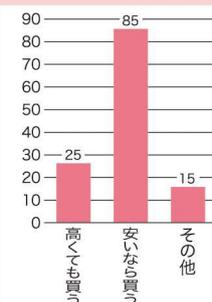
農畜産物はどこで買いますか？



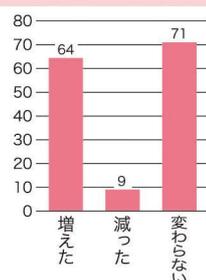
今、自宅で食べているお米は何ですか？



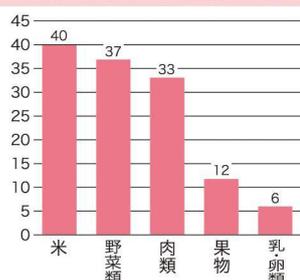
「雪若丸」の価格帯について



コロナ禍での外出自粛で米、野菜、肉などのご家庭での消費量に変化はありましたか？



消費量が増えた場合、特に変化を感じた農畜産物はどれですか？(複数回答可)



第2ブロック

(大曾根、西山形、村木沢)

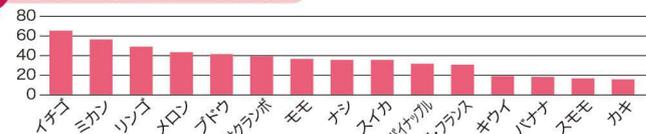


昨年度までは三地区合同で各小学校高学年の児童を対象に食の大切さを学んでもらうため、農産物の収穫体験、農産物育成の出前授業、農園・農場の見学等を実施してきました。しかし、今年はコロナ禍により例年のような事業学習ができない状況になりました。中止もやむを得ないかと考えましたが、「子供たちへの食育活動は継続したい」という総意があり実施することになりました。11月下旬に地元産のリンゴとラ・フランスを児童に食べてもらって簡単なアンケートを記入してもらう。アンケート提出は児童には強制はしないことにしました。

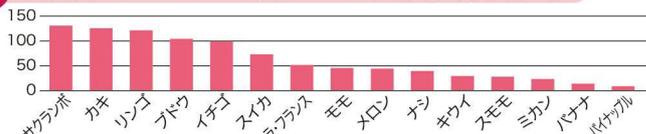
第2ブロック食農交流事業アンケート結果

回答総数 193件

Q1 好きな果物 (3つまで回答可)



Q2 実際実っているところを見たことがある果物 (複数回答可)



11月末をもってアンケートを回収しましたが、100%の回収率でした。Q1の「好きな果物」については、子供でも手軽に食べられるイチゴやミカンが上位にきました。味は甘酸っぱさがあるものや、食感がシャリシャリするものが好まれたようです。また、Q2の「実際実っているところを見た果物」については、やはり当県を代表するサクランボ、カキ、リンゴ、ブドウなどが上位にきました。

第4ブロック

(鈴川、楯山、高瀬、山寺)

その他好きな食べ方などの質問には子供たちの自由な発想が多くあり微笑ましくなりました。今回初めての企画ではありましたが、「未来を担う子供達へ食の大切さを伝える」をしっかりと胸に刻み、当地区の農業を振興していかねければと改めて感じたところです。(農業委員 阿部 芳徳)

例年山形市農畜産物フェスティバルに協賛者として参加し、地元産のこんにゃくや野菜、そしてリンゴジュースを出店、販売することにより地域農産物のPRと消費拡大を図っている。

今年のフェスティバルは、10月17日に例年通り山形市の県民ふれあい広場にて、新型コロナウイルス感染防止のため、来場者のチェック体制をしっかりと行い、人気のあった試食や試飲を中止して販売のみとした。販売時間も午前10時から午後1時までの3時間に短縮され、出店規模も大幅に縮小しての開催となった。

開催当日は天候が悪く、肌寒いで客足が心配されたが、第20回目の開催であり、楽しみにしていた方々も多く、訪れた人たちは地元産の野菜や果物を次々と購入していた。



(農業委員 梅津 茂)

あつという間に売り切れ状態になるほどの盛況で、特にこんにゃくは開始早々一時間余りで完売となった。私たちが一緒に出店した野菜やジュースもお昼ごろにはほぼ完売状態になった。

新型コロナウイルス禍で開催自体が危ぶまれたが、この時期にしか味わえない旬の野菜や果物として新米を安価で提供できるフェスティバルは、地域農産物のPRや消費拡大だけでなく、本物の大切さを教えているような気がしてならなかった。何故なら、訪れた方々の多くは、きちんと品定めをしておられた。

今後も積極的に参加し、食農交流事業活動を大いに進めていきたいと思う。

農地利用最適化推進委員研修

11月2日、山形市役所にて農地利用最適化推進委員の活動、農地利用最適化に関する検証見直し、意見交換会の三つについて研修を行った。

意見交換会については四つの班に別れ、農地利用の最適化（遊休農地の発生防止・解消、担い手への農地利用集積集約、新規就農者の促進等）について意見の交換、各班の代表者が意見を集約し発表。問題点が浮かびあがる。土地改良区等で、整備された水田等は、担い手に集積集約は進んでいるが、中山間地の不整形地、並びに有害鳥獣の被害のある農地は借手もなく荒廃の一途で新規参入もままならない。施設園芸・果樹栽培でも大規模化は難しく家族単位で繁忙期に臨時雇用でしのご、いかに有利に販売するか個々の経営手腕にかかっている。パートの方々も高齢化し若手がいなくなっている。自由貿易に舵をきられ、輸入農産物で自給率が40%をきる。戦後の自給自足形態と違い業績が上がらなければ廃業と厳しい現状である。当時の首相や農林水産大臣の答弁は、「不利益な中山間地の農業は事細やかに支援していく。」とのことだったが現状は変わっていない。要求運動も途絶えてから久しい。

（農地利用最適化推進委員

委員長 柏倉 傳右工門）

農業者年金受給者の死亡の続き 手続きについて

農業者年金受給者の死亡の続き

ご遺族様は、「農業者年金死亡関係届出書」に農業者年金証書、受給者の死亡日を明らかにできる戸籍の謄本、住民票（除票）の写し等を添付し、お亡くなりになった日から10日以内に最寄りのJAに提出してください。JAから農業委員会を経由して農業者年金基金に送付されます。大幅に遅れると過払いが生じる場合があります。その返還を求められますので、手続きはお早めに行ってください。農業者年金は受給者がお亡くなりになった月分まで支給されます。支払われる年金がある場合には未支給年金を請求できます。

また、加入者や過去加入していた方及び受給者が、80歳前にお亡くなりになった場合に、ご遺族様は死亡一時金が受け取れます。農業者年金死亡関係届出書と併せて、死亡一時金の請求を行ってください。未支給金と一時金の請求には、死亡者と請求者の続柄を確認できる戸籍の謄本等も必要です。

（旧制度の場合、死亡一時金の請求の要件が異なりますのでご確認ください。）

令和3年度 山形市農業委員会 許可等日程

許可月	3条・4条・5条等の受付期間	総会開催日
4月	3月22日(月)～25日(木)	4月13日(火)
5月	4月20日(火)～23日(金)	5月13日(木)
6月	5月20日(木)～25日(火)	6月14日(月)

※農地法3条（農地に係る権利移動）、4条・5条（農地の転用）等の許可を受けるためには、上記の受付期間中に申請し、翌月13日頃開催の総会で許可・不許可の決定となります。

※許可申請には確認事項、必要書類がありますので事前にご相談ください。

お問い合わせ先：山形市農業委員会事務局（電話023-641-1212 内線775・776）

編集後記

2021年は全世界の人が心からの幸せを感じることなく、迎えることになりました。いろんな苦難を乗り越えて来た人類ですが、このような事態は初めての経験となります。わが身を振り返ると、仕事もあり、住む家があり、食べるものがあるだけ有難いと思いつつ、日々過ごしていますが、以前の様に物事が流れていかない気がします。一日も早く日常が戻ることを願い、無心に働き、無心に食し、意識して平常心を保っていききたいものです。

（編集委員 新聞 さとみ）

農地の貸し借りで悩みの方は ご相談ください！

- ・農地を借りてみたい。
- ・高齢になったので耕作ができない。
- ・農地を相続したが耕作できない。

など



詳しくは地元の委員、または農業委員会事務局（電話 023-641-1212 内線 775・776）までお問い合わせください。